

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 施設名   | 馬込ここわ保育園                      |
| 法人名   | 株式会社ディアログ                     |
| 法人所在地 | 東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。

### <テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人講師が週2日来園し、英語で子どもたちと接してきました。レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、園児に寄り添ってきました。このように当園では、英語が園児にとって身近な興味となっていることから英語のみならず、韓国語、マレー語、ネパール語、フランス語などの多言語や普段話している日本語も含めて「ことば」をテーマとして設定しました。



### ①. 活動スケジュール

【問いかけ】5歳児クラスでは、保育者がことばについて問いかけました。「私たちが話していることばは、何ということばか知っている?」「私たちが話していることばは、どんな人でも話していると思う?」「私たちが話していることば以外で聞いたことがあることばって何かある?」子どもたちは、「〇〇くんのお父さんはネパールなんだよ」、「ステファニー先生は、英語しか話せないんだよ。日本語は話せないんだよ。」と、日本語と英語ということば、そしてそれ以外のことばもあることは知っているようです。

【流れ】英語講師の来園日には、英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語絵本の読み聞かせをする際、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語ということばを共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。他言語活動では保育者と子どもたちで質問事項を考え、活動会後は模造紙に活動報告を作成し、園掲示板に掲示しました。

\*読み聞かせ：日本語と英語と韓国語

\*手遊び歌：日本語と英語

\*外国を知ろう：ネパール、マレーシア、フランス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

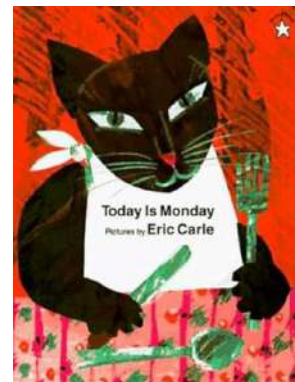
【環境設定】英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

\*同じ作者の日本語と英語の絵本：エリックカールの「げつようびはなにたべる」と"Today is Monday"、韓国語絵本

\*同じ手遊び歌の日本語バージョンと英語バージョン：「グーチョキパーでなにつくろう」と"Rock scissors paper finger play"

\*他言語活動：他言語講師には自身の国の写真を準備してもらい、子どもたちがその写真を模造紙に貼り説明を加えて、園内掲示します。



#### 4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①"Today is Monday(げつようびはなにたべる)"英語絵本の読み聞かせ

\*5歳児クラス：英語講師が"Today is Monday(げつようびはなにたべる)"英語絵本の読み聞かせを行いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

多くの子ども達の知っている絵本だったので、楽しく見る事ができた。英語講師の発音に合わせて「Monday」と言い食べるジェスチャーを行っていた。いろいろな場面で「Come and eat it up」という英語の発音をすると子ども達の好きなフレーズでもあり大笑いする子が多くいた。

また、「Today is Monday」の歌に合わせて子ども達も一緒に歌い始めた。

「Today is Monday」の歌が終わり、英語講師が食べ物のジェスチャーをすると「chicken」

「roast beef」「fresh fish」「soup」「spagte(spaghetti)」

「ice cream」「……Beans (String Beans)」と英語で答えていた。最後の

「String……」の発音が難しく「Beans」だけ発音していた。



#### 4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「げつようびはなにを食べる」日本語絵本の読み聞かせ

\*5歳児クラス：保育者が「げつようびはなにを食べる」日本語絵本の読み聞かせを行いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

読み始めの前に子ども達に英語で同じ絵本を読んだことがあるため日本語と英語での読み方の違い…何の違いだったか？という会話をしてから読み聞かせを行った。「げつようびは、なにを食べる？」とワンフレーズ読んだだけで「stringbeans」（さやいんげん）と言う子がいた。絵本のイラストを見て「きゅうり」と思ったようで、「cucumber」と答える子もいた。

また、英語では木曜日は「roastbeef」だからか、日本語は「ハンバーグ」だったが、「ローストビーフ」と元気よく言い合う子どもも多かった。

どの曜日もジェスチャーを添えて楽しむ子ども達だった。絵本の後には歌も歌いたいとリクエストがあったので、みんなで歌い楽しい時間となった。



#### 5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** この絵本はみんなが好きな本で内容もよく知っているため英語で読んでも、日本語で読んでも反応がはやかった。英語講師の質問にも子どもたちは英語で答えていたが、使われていない単語の発音は難しく何度も講師に聴く場面があった。日本語の読み聞かせでは、英語と日本語と絵を比べながら答える子が多く、日本語と英語の食べ物の名前に少し違いがあり、日本語と英語の食べ物の名前の違いに疑問をもつ子もいた。

**【次回への問い】** 絵本ではなく、素材を変えて例えば手遊び歌でも子どもたちは絵本のように違いを面白がることができるのだろうか？

#### 4-②. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>②「ぐーちょきぱーでなにつくろう」日本語で手遊び歌を歌う

\*5歳児クラス：保育者が「ぐーちょきぱーでなにつくろう」日本語で手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

5歳児は自分達で、右手と左手の「グー・チョキ・パー」の組み合わせを考え、何ができるかまた、作るかを考え楽しむ姿が見られた。日本語と英語の単語を言い、日本語よりも英語で答える子が多くいた。「ICECREAM」の時は英語講師と一緒に「ヤミー」と食べる仕草をしていた。「SNOWMAN」が雪だるまの事と結びつかず驚く子もいた。ちょうちょうではなく「BUTTERFLY」と英語ですぐに発音していた。

教えてもらった英単語はよく口にしている。



#### 4-②. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>②"Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

\*5歳児クラス："Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師の「Rock - Scissors - Paper」の歌に合わせてPaperとPaperにすると想像ができたようで、「Butterfly」また、「Helicopter」「Snails」と講師とともに英語での発音をしていた。

反対に英語講師に日本語だが「グーとグー」で「あんぱんまん」だよと教える姿もあった。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語の「グーチョキパー」の手遊びは5歳児には物足りなさがあるようで、反応に対して日本語ではなく英語で答えていた。英単語に興味を示している。英語の手遊びの方が何になるか楽しみのため、みんな集中して行い英語講師にグーチョキパーで出来るものを教えていたり、実際に子ども達が考えたものを行ったりしていた。日本語以外のことばを導入する際、子どもにとって馴染みのある日本語の教材を使って、しかも年齢よりも簡単な教材を使って、別のことばを導入すると子どもたちも興味を持って取り組むことができるかもしれない。

【次回への問い】日本語、英語以外の言語、子どもたちにとって馴染みのない韓国語で読み聞かせをすると子どもたちはどのような反応をするだろうか？

#### 4-③. 探究活動の実践（韓国語）

<活動の内容>③韓国語の絵本の読み聞かせを行う。

\*5歳児クラス：「のら猫軍団のパン工場」の読み聞かせを韓国語で行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

担任が韓国語を読み、話せるということ子ども達から「すごい～」と歓声があがった。韓国語の絵本を読むと「何で読めるの？」と聞きまた、担任が韓国語を話すと聞きとった単語を真似て言ってみたり、発音が面白い言葉には笑ってみたりしていた。見たことのある絵本だったからか、イラストから読み取り「ふっくらってことか」など自分なりに読み取り「怒られている」と物語のイメージを膨らませていた。一日の生活の中でも、子ども同士で「いただきます」などを韓国語「チャルモッケスムニダ」と話していた。



#### 5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】韓国語の発音の楽しさを知り、保育者の発音に続き韓国語を言いました、日常会話の中でも思い出したように話す子もいた。このように日本語と英語以外にもことばがあることを普通に受け入れ、抵抗もなく色々なことばを真似しようとする子どもの好奇心や探究心を改めて感じた。

【次回への問い】当園には日本以外の国の園児も通園していて、その中にネパールの園児もいます。色々なことばに興味を持った子どもたちは色々な国にも興味を持ち始めました。そこで今度はネパールのことが知りたいという子どもたちの希望により、ネパールの保護者にネパールについてお話をしてもらうことになりました。

#### 4-④. 探究活動の実践（ネパール語）

<活動の内容>④ネパールという国を知ろう。

\*5歳児クラス：ネパール出身の保護者からネパールについて話を聞き、ネパール語を教えてもらいました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ネパールの保護者が講師となり、子どもたちは言葉や食べ物、建築物また文化について話を聞いた。親しみを持ち、子どもたちも興味津々だった。ネパールの言葉をカタカナで発音、食事ではカレーを主とし、手で食べる習慣など聞くと、子ども達からは、「えー？お箸は」「熱くないの？」などの質問があり文化の違いに驚いていた。また、建物では2015年の地震での災害など社会についても知ることができた。実際のチベットの山の写真を見せてもらい「他にも見たい」と興味をもつ子が多くいた。



#### 5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** ネパールの言葉だけではなく全ての事に興味を示し、集中して聴く姿があった。  
**【次回への問い】** 英語講師の出身国はマレーシアです。そこで英語講師ステファニーにもマレーシアについて話してもらおうと子どもたちが直接ステファニーに依頼しました。

#### 4-⑤. 探究活動の実践（マレー語）

<活動の内容>⑤マレーシアという国を知ろう。

\*5歳児クラス：英語講師ステファニーの出身がマレーシアということで、マレーシアという国、そしてマレー語ということばを教えてくださいました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師がマレーシア出身なので、マレーシアの言葉や文化を教えてくださいました。

マレーシアの有名な果物はドリアン。ドリアンの写真を見るとドリアンのトゲは痛いなどの質問があがった。「アイスカチャン」がかき氷を意味する言葉で、みんな「アイスカチャン」とすぐに覚え繰り返し言っていた。また、写真を見て「美味しそう」「食べたい」と話していた。また、マレーシアの歌をうたったり、質問ができたりとマレーシアの言葉をたくさん教えてくださいました喜んでいました。



#### 5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** マレーシアの食べ物に興味を示したり、言葉を覚えたりと興味津々に講師に質問をしていた。普段英語しか話さない英語講師が別のことばも話せるということで、子どもたち自身も日本語だけではなく他のことば、例えば英語を話すということについても普通に受け留めていたように思えた。

**【次回への問い】** 保育ボランティアとしてフランスから大学院生が当園に来ているので、今度はフランスについて知ろうということになりました。



#### 4-⑥. 探究活動の実践（フランス語）

<活動の内容>⑥フランスという国を知ろう。

\*5歳児クラス：フランス人の保育ボランティア、アリスがフランス語でエリックカールの「できるかな」の絵本を読み聞かせしました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

アリスに親しみをもち、挨拶をアリスが教えてくれると発音が日本では聞きなれず「難しい」という子もいた。数回教えてもらおうと「BonjouR」「ボンジュール」と日本語近い発音をする子もいた。「美味しい」や「ありがとう」、「好きじゃない」などの単語も習いその中で、「jE N AiME PAS」が「ジュウエンパン！」と言い「十円パン」に聞こえたことから、「ジュウエンパン」と言いそれとなく発音をしていた。

アリスの手の動きが気になる子がいて、「手はなんて言っているの」と日本語にはない文化に興味をもっていた。また、「できるかな」の絵本をフランス語で読んでもらい「できるかな」「Je peux faire」を真似て保育者と一緒に発音をしていた。

フランス語とカタカナを交えて絵や写真を見る中、知っている建物があると「エッフェル塔」と答える子も多かった。



#### 5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】言葉に対しては耳から入り、その言葉を言うとフランス語らしく聞こえ言葉の楽しさを感じ言葉を何回か繰り返し発音をしていた。

【次回への問い】子どものことばを覚える過程はまず耳でじっくり聞くという行動があるということに改めて感じる結果となった。また英語を覚えるという過程で、耳で聞くということを子どもたちが行っていたので、他の言語にも同じように応用し、わずか短時間でもことばの習得ができたのではないか。別の国出身の外国人英語講師が来園して、違う英語を話すことで子どもたちはどのような反応をするのだろうか？